

■今参局 将軍足利義政の乳母。義政に愛され権力を振るい、正室入った日野富子側の讒言で自刃に至った。

いままのつぼね

・・・・・・1418= この頃、将軍の近習衆で幕府の中流家臣の大館上総入道満冬の娘に生まれる。

・・・・・・1427= 9歳 :

義教鑑引将軍1428=10歳 :

・・・・・・1436=18歳 : この年、誕生した足利義政の乳母になり、

嘉吉の乱・1441=23歳 :

・・・・・・1445=27歳 :

才色兼備であるとともに、政治に容喙で、義政が長ずるに従い、背後であやつるようになる。今参局というのは、単に新参の女房という意である。

足利義政将軍1449=31歳 : \*足利義政が将軍に就いてまもなく、

大和徳政一揆1451=33歳 : \*義政が今参局の意見を容れて、尾張守護代を守護斯波氏が推した人物に交替させようとしていた生母日野重子の意見を退けた上、その切腹させたことで、今参局派と重子派の対立が一気に表面化、将軍生母重子が隠退する幕府にとってあってはならない事態となり、

享徳の乱始・1454=36歳 :

古河公方始・1455=37歳 :

\*局は女子を当産。義政は19歳であった。有馬元家、烏丸資任とともに「三魔」(今、有馬、烏丸と語尾に“ま”がつくから)といわれ、義政の政治に干渉する邪悪な振舞いが風刺の対象とされた。元家は赤松氏の一族で義政の近習として寵愛されており、資任は日野氏の一族で権勢の座を占めていた。この年、日野家から富子が義政の正室として入ると、富子派と今参局派とが生まれ、両派はことあるごとに激しく争った。

寛正大飢饉始1459=41歳 :

\*富子は男子を生んだが、子はすぐに死んだ。今参局が富子の男子出生を呪詛したからだと言われ、義政によって琵琶湖の沖ノ島に配流となり、その途中、近江の甲良寺で自刃した。一説では富子が重子らと共謀して暗殺したとも伝えられる。局は、怨霊となって重子や富子に祟り、富子の末子はその祟りのため片眼が失明したといわれる。